

シクラメン

丸山弘子

バス停に友居てこれより仕事とぞ師走二十六日眼科医院の前  
面倒をみて居し最後の野良猫も死にたるといふ さびしと男  
年の瀬と思へぬ今日のあたたかさ夕暮れ親子の猫か睦めり  
雨催ひの今朝もひよどり二羽で来て銀杏の高きに並び鳴きゐる

あたたかき一月末の昼下り鶉<sup>ひよ</sup>来て金魚の瓶の水飲む  
大学が三棟並ぶ公園も冬休みゆゑめぐりさむざむし  
物置の屋根のトタンにホツホツと等間隔に穴あきてをり  
いつの間に入りこみしやコホロギが食器戸棚の裾で鳴きゐる  
内臓に持病なけれど幼きより歯科医通ひのをりをりつづく  
としどしの定まりと届くシクラメンの大きな花鉢母亡きのちも